

協議テーマに関する主な取組例

主な対象者	事業	具体的な内容	備考
外国人等	多言語自動翻訳や音声テキスト変換を行う透明ディスプレイの設置（令和6年度～）	<p>母語とする言語等にかかわらず利用者に必要な情報を届けるため、多言語自動翻訳や音声テキスト変換の機能を持つ「透明ディスプレイ」を、総合案内及び相談カウンターに設置している。</p> <p>※東京都は、東京2025世界陸上競技選手権大会と第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025を契機に、「いつでも・どこでも・誰とでも」つながるインクルーシブな街の実現に向けた取組を進めている。その一環として、デジタル技術を利用し、音声を多言語に翻訳して表示する透明ディスプレイを導入した。令和8年度以降の設置継続について予算要求中。</p>	中央・多摩共通
	話題の洋書コーナーのテーマ展示（ミニ展示）に関する情報発信	<p>話題の洋書コーナーのミニ展示は、3ヶ月毎にテーマを変えて行っている。日本の文化や自然、流行などを外国语で紹介している資料を都立図書館の蔵書全体から選定し、展示している。</p> <p>今までにとりあげたテーマは「Origami」「Earthquake disaster」「KIMONO」「Ninja&Samurai」「Washoku」など。展示替えと同時に、当館のSNSと「東京都つながり創生財団」の「お知らせ」欄にて、やさしい日本語と英語で情報発信をしている。</p>	中央
	ホームページ内に「多文化共生」のページを新設	<p>話題の洋書コーナーと日本語学習コーナーを、やさしい日本語（総ルビ）で紹介している。内容の充実は今後の課題。</p>	https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/collection/features/tabunka/index.html
	大使館連携事業	<p>近隣の大使館等からの依頼に応じて、中央図書館内のスペースを提供し（施設貸出）、展示やイベントを行っている。開催時には当館の蔵書から関連資料を同時展示している。今までに連携した大使館等（国名）は、エジプト、ペルー、カザフスタン、アルゼンチン、フランス、エクアドル、リトアニア、フィンランド、等。</p>	中央
	ボードゲームDAY	<p>若年層に一定の人気がある「ボードゲーム」を活用し、図書館の利用者層、特に若年層への都立図書館の認知度向上、今後の利用促進を図るために実施している。前回（7/11）は6人の外国人が参加し、最後に「日本語の勉強になる」といった声が寄せられた。ボードゲームを通じて外国人と日本人で自然と会話が生まれ、次第に打ち解ける様子が見られた。</p>	中央 https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/guide/event/various/7268_20250616.html
視覚障害者等	オンライン対面音訳サービスの開始（令和6年度）	<p>令和5年7月から試行、令和6年8月本格実施している（HPのお知らせあり）。</p> <p>令和6年度の中央図書館の来館による対面音訳と合わせた利用時間は820時間。内訳は約7割（570時間）が来館、3割（250時間）がオンラインによる利用と推定。</p>	https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/guide/infoformation/6811_20240830.html
	OCR（光学文字認識）による視覚障害者等用テキストデータの作成（令和6年度）	<p>令和2年度から令和5年度までは試行的に製作（1点から7点）。令和6年度から予算が措置され、専任の非常勤職員が付き、AIを活用したOCR（光学文字認識）の利用や専用のパソコン、プリンターを備えることにより22点を製作した。</p> <p>製作する資料は利用者からのリクエストが優先だが、このほかに新聞書評に掲載されたブックレット、新書等から、時事問題など需要があり、早期に提供可能なものを選書している。</p>	